

大飯原発揺れ想定 再計算「過小評価」

規制委に前委員長代理

原子力規制委員会が関西電力大飯原発（福井県）で想定される地震の揺れを再計算し、揺れの見直しは不要と結論づけたことについて、前委員長代理の島崎邦彦・東京大名誉教授は15

■大飯原発の揺れ想定をめぐる経緯

2014年 9月	島崎氏が原子力規制委を退任
10月	規制委が856ガルで了承
16年 6月	名古屋高裁金沢支部の訴訟で島崎氏が「過小評価の可能性」との陳述書を提出
	島崎氏と田中委員長らが面談し、規制委は再計算を決定
7月	規制委が再計算結果(644ガル)を公表

日、記者会見し、「規制委の再計算では足りない。過小評価だ」などとして、改めて計算し直すよう求めた。島崎氏は大飯原発運転差し止め訴訟の控訴審で、関電の計算手法を疑問視する陳述書を提出している。今回の指摘は、裁判にも影響を与える可能性がある。規制委は、田中俊一委員長が19日に島崎氏と面会し、今後の対応を検討する方針を明らかにした。

大飯原発で想定される地震の揺れについては、「関電の計算手法では、過小評価になる可能性がある」との島崎氏の指摘を受け、規制委が別手法での再計算を

決定。規制委は13日、新規制基準の審査で了承した揺れの大きさを上回らないとの結果を公表した。

それに対し、島崎氏は会見で、規制委の再計算は審査と設定が異なり、余裕も見込まれていないと指摘。「納得していない」と語った。その上で、実際の揺れ

は1550ガル（ガルは揺れの勢いを示す加速度の単位）になる可能性があるとし、審査で了承された856ガルより「かなり大きいのは間違いない。規制委の議論や結論はおかしい」と語った。島崎氏は規制委発足時から2年間、地震や津波の審査を担当した。